## 5　「学習者主体の授業」を進める上で大切な視点は何ですか

**Answer**

授業研究，生徒指導，特別支援教育，教育ＤＸといった，様々な視点から授業改善を し続けることが大切です。本資料ではこの四つの視点について説明していきます。

### 視点Ⅰ「学習者主体」の視点を重視した授業研究

○　「学習者主体の授業」を行うに当たっては，まず，それぞれの教員がもつ子供観を交流し，「観のアップデート」を行うことが重要です。
○　その上で，子供たちに育成する資質・能力を校内で共有し，具体化に向けた手立てを教育課程に反映し，実施，評価，改善していく組織体制が不可欠です。
○　その共通理解の下，授業参観を行う際には，子供の学びの姿（事実）が，育成する資質・能力を発揮した姿として表れているか，「子供たちが」何をつぶやき，どのような行動をとっているかを根拠に指導法を見つめ直すことが大切になります。
○　このような視点に立って授業研究を行うには本県が推進している授業研究が有効です。

#### どのような授業研究ですか

**1　子供の学びの姿（事実）からスタートする**

校内研究授業では「首をかしげていた」，「すぐに鉛筆を持って書き出した」など，子供たち一人一人の学びの事実を丁寧に見取ります。その際，「楽しそうに活動していた」という推測や，「子供がよい発表をしていた」という評価は除きます。

**2　子供の学びの姿（事実）の解釈について交流する**

事実のもつ意味や解釈を交流することにより，新たな気付きや発見とともに，授業観や子供観等の観のゆらぎが生まれます。

**3　授業における目指す子供像に迫れていたかどうかを検証する**

子供の学びの姿（事実）の背景を，子供の立場になって考えます。

**4　共通実践事項を検討し，実践する**

子供たちのために具体的に授業をどのように改善するかを話し合い，共通実践事項として決定します。決定後は共通実践事項を踏まえた授業実践を行います。

#### どのような効果がありますか

上記の1～4の授業研究を行い，授業改善に生かしている学校では，主体的に研修に参加する教員が増え，子供観の交流や授業の在り方に関する積極的な意見交換が行われています。また，学校全体で目指す子供の姿を追い求めた具体策を検討し，学力調査の結果につながっている学校も増えています。実践している学校では，以下のような声が聞かれます。

（参加教員）
子供の学びの姿（事実）の解釈では，多様な見方が見られ，新たな視点に気付かされた。子供を観察する力をしっかりと身に付けたい。

（管理職）
学習者主体という言葉はよく聞くが，子供を主語として語り合う教員の姿が，求められている姿だと実感できた。

（授業者）
教科は異なっても，同じような部分に課題があることが分かり，全校体制で改善を図る必要性を感じた。

**総合教育センター作成による「教職員のための研修の手引き」がリニューアルされています。子供たちの資質・能力の育成に向けた組織的な校内研修の在り方の参考として活用しましょう。**

←総合教育センター「教職員のための研修の手引き」

## 視点Ⅱ 「生徒指導」の視点を重視した授業改善

**今こそ，意識を変えるとき！これからは，学習指導と生徒指導の一体化を！**

○　改訂された生徒指導提要では，学習指導の目的を達成する上で，また生徒指導の目的を達成し，生徒指導上の諸課題の未然防止のためにも，教育課程における生徒指導の働き掛けが欠かせないとされています。
○　学習指導と生徒指導を分けて考えるのではなく，相互に関連付けながら両者の充実を図り，教育目標を実現するために，「子供の発達を支える指導」（発達支持的生徒指導）の充実を具現化することが大切です。

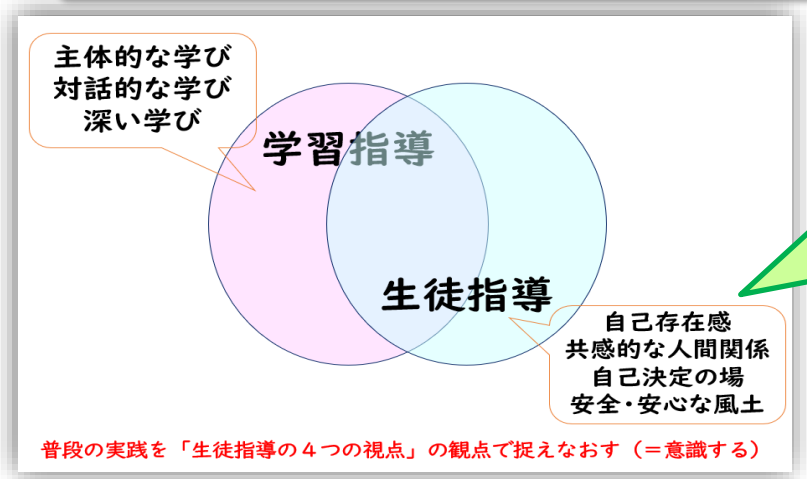
### 発達支持的生徒指導とは何ですか

○　特定の課題を意識することなく，全ての子供を対象に，学校の教育目標の実現に向けて，教育課程内外のすべての教育活動において求められる基盤です。
○　子供が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重し，その発達の過程を支える学校や教員の子供に向き合うスタンス（「指導」でも「援助」でもない）です。

### 発達支持的とは何ですか

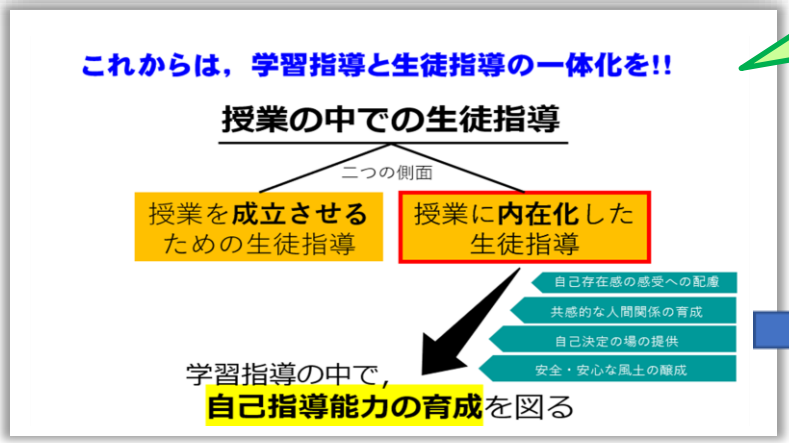
○　自己理解力や自己効力感，コミュニケーション力，他者理解力，思いやり，共感性，人間関係形成力，協働性，目標達成力，課題解決力などを身に付けることを支えることです。
□　日常的な挨拶や声かけ，励まし，称賛，対話　など
□　学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場にし（居場所づくり），活躍できる場面を計画・準備する活動（絆づくりの場の提供）など

### 授業の中に，生徒指導の実践上の四つの視点を取り入れましょう。




これからの授業づくりでは，「学習指導要領」の趣旨を踏まえるとともに，「生徒指導提要」も活用して，学習内容や支援の方法，学習環境や形態等を工夫することが重要です。

授業こそ，最も重要な発達支持的生徒指導の場です。




生徒指導の実践上の四つの視点

- ○ 自己存在感の感受への配慮
- ○ 共感的な人間関係の育成
- ○ 自己決定の場の提供
- ○ 安全・安心な風土の醸成

このような取組を重ねることは「魅力ある学校づくり」の重要な取組の一つです。発達支持的生徒指導を踏まえた学習指導が展開されることで，児童生徒の自己肯定感や自己有用感が高められるとされています。このような生徒指導の視点を重視しながら授業改善を行っていくことは，「学習者主体の授業」を実践するためにも重要となります。

## 視点Ⅲ 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う際には，特別支援教育の視点に立って指導・支援を行うことが有効です。

### 1　特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

はじめに…学びにくさのある子供のアセスメントを実施→学びにくさを把握し，個別の指導計画を作成→PDCAサイクルで実施

Ｐｌａｎ ・ UD（ユニバーサルデザイン）を意識した単元構想と授業づくり
・ ICT等を活用した一人一人に合った指導・支援の計画

Ｄｏ ・ 授業の実践 ・「個別最適な学び」 ・「協働的な学び」

Check ・ 有効な指導・支援について本人(保護者)とともに確認 ・ 課題の把握

Action ・ 個別の指導計画を更新 ・ 本人・保護者との評価の共有 ・ 授業改善

「個別最適な学び」を教員の視点で整理した概念が「個に応じた指導」です。「個に応じた指導」で子供が身に付けたことを，学級等で友達とともに学ぶ集団学習の中で生かすことができるよう，「協働的な学び」を計画的かつ積極的に工夫して取り組むことが大切です。

### 2　ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・環境整備

○　発達障害等を含む配慮を要する子供に「ないと困る支援」
○　どの子供にも「あると便利で，役に立つ支援」

→ 全ての子供の過ごしやすさと学びやすさの向上

**ユニバーサルデザインの視点**
**焦点化（シンプル）　明確化（クリア）　視覚化（ビジョン）**

ア　焦点化（シンプル）
○　環境づくり（場の設定・音の配慮）
○　イメージづくり（間・選択肢・区切り）
○　短い言葉で伝える
※　教員がどれだけ意識して指導することができるかが大切。

イ　明確化（クリア）
○　正しい行動を明確に伝える
○　「いつ・どこで・何を」すればよいのか（大丈夫なのか）教える
※　一斉指導で，または個別に明確に伝えることが大切。

ウ　視覚化（ビジョン）
○　見えないものを見えるようにする
○　イメージを助けることで安心を与える
※　視覚化することで，安心して自分から動くことやできることが増える。

学級でのユニバーサルな配慮　～例～
「注意喚起」・・・注目させてから話す
「視覚化」・・・言葉＋実物・絵・文字
「簡潔な指示」・・・一度に一つの指示
「復唱」・・・繰り返し唱える
「行動の確認」・・・今から何をする？

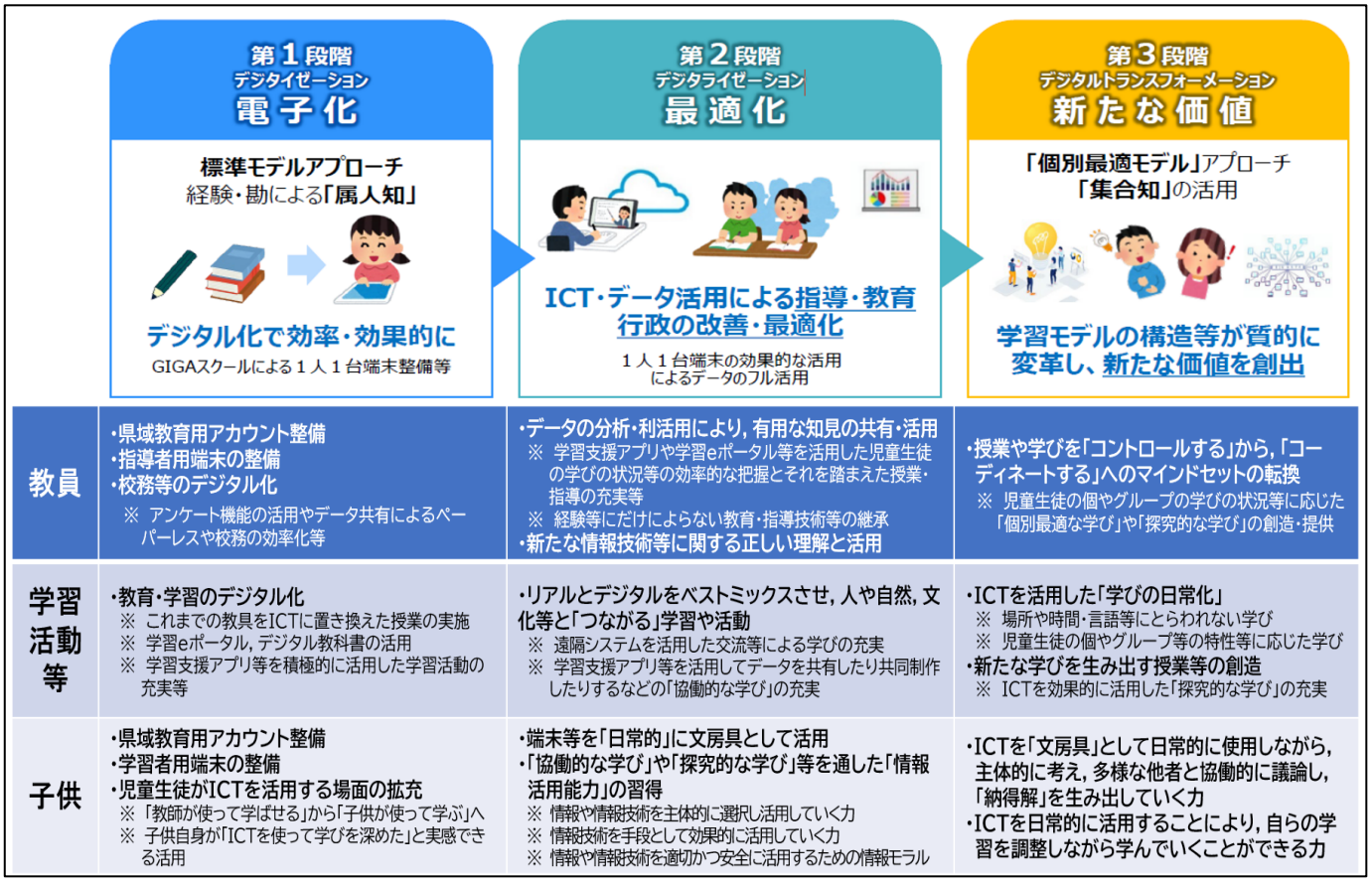
---

**ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進める際には，「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」も活用してください。**

←鹿児島県教育委員会　「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」

## 視点Ⅳ 「教育 DX」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」,「協働的な学び」の実現には,子供自身が ICT を活用して個々の状況,特性に応じて,自ら目標を設定し,学習方法等を自ら選択,自己評価できる学習モデルを創造していく,教育における DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進することが不可欠です。




| | | | |
|---|---|---|---|
| 教員 | ・県域教育用アカウント整備<br>・指導者用端末の整備<br>・校務等のデジタル化<br>※ アンケート機能の活用やデータ共有によるペーパーレスや校務の効率化等 | ・データの分析・利活用により,有用な知見の共有・活用<br>※ 学習支援アプリや学習eポータル等を活用した児童生徒の学びの状況等の効率的な把握とそれを踏まえた授業・指導の充実等<br>※ 経験等にだけによらない教育・指導技術等の継承<br>・新たな情報技術等に関する正しい理解と活用 | ・授業や学びを「コントロールする」から,「コーディネートする」へのマインドセットの転換<br>※ 児童生徒の個やグループの学びの状況等に応じた「個別最適な学び」や「探究的な学び」の創造・提供 |
| 学習活動等 | ・教育・学習のデジタル化<br>※ これまでの教具をICTに置き換えた授業の実施<br>※ 学習eポータル,デジタル教科書の活用<br>※ 学習支援アプリ等を積極的に活用した学習活動の充実等 | ・リアルとデジタルをベストミックスさせ,人や自然,文化等と「つながる」学習や活動<br>※ 遠隔システムを活用した交流等による学びの充実<br>※ 学習支援アプリ等を活用してデータを共有したり共同制作したりするなどの「協働的な学び」の充実 | ・ICTを活用した「学びの日常化」<br>※ 場所や時間・言語等にとらわれない学び<br>※ 児童生徒の個やグループ等の特性等に応じた学び<br>・新たな学びを生み出す授業等の創造<br>※ ICTを効果的に活用した「探究的な学び」の充実 |
| 子供 | ・県域教育用アカウント整備<br>・学習者用端末の整備<br>・児童生徒がICTを活用する場面の拡充<br>※ 「教師が使って学ばせる」から「子供が使って学ぶ」へ<br>※ 子供自身が「ICTを使って学びを深めた」と実感できる活用 | ・端末等を「日常的」に文房具として活用<br>・「協働的な学び」や「探究的な学び」等を通した「情報活用能力」の習得<br>※ 情報や情報技術を主体的に選択し活用していく力<br>※ 情報技術を手段として効果的に活用していく力<br>※ 情報や情報技術を適切かつ安全に活用するための情報モラル | ・ICTを「文房具」として日常的に使用しながら,主体的に考え,多様な他者と協働的に議論し,「納得解」を生み出していく力<br>・ICTを日常的に活用することにより,自らの学習を調整しながら学んでいくことができる力 |

### 1 タブレット端末利用の日常化・文房具化

「個別最適な学び」,「協働的な学び」の実現に向けて,タブレット端末を活用しましょう。

子供が場所や時間・言語等にとらわれない学びや,個々やグループ等の特性に応じた学びを実現するためには,タブレット端末を,教員の指示に限らず,児童生徒自身が必要な時に必要な方法で,文房具のように日常的に利用できるようにする必要があります。これにより,子供は,自らの学びを調整しながら学び進めていくことが可能になります。

### 2 教育データの利活用

ICT により蓄積された教育データを有効に活用し,指導に生かしましょう。

○ 子供の学習履歴や学習成果物等のデータを基に児童生徒の学びの特性を把握し,それに応じて指導の個別化を図ったり,子供自身が学習方法を選択したりすることができるように指導します。

○ AI ドリル等を活用することで,習熟状況をリアルタイムで確認できます。一人一人の子供の学習進度や課題に応じた練習問題を自動で表示させるなど,主体的に学習に取り組めるようにします。

○ 学習系と生活系のデータ（出席状況，心の健康状態など）等，様々なデータの相関により，これまで教員の勘や経験だけに頼っていたものに，データによる裏付けを加えることで，より子供を適切に理解し，指導・支援に生かすようにします。

## 3　学習者主体の家庭学習

タブレット端末の持ち帰りにより，主体的に家庭学習に取り組めるようにしましょう。

タブレット端末の持ち帰りにより，学校における授業と主体的な家庭学習の往還が可能となります。

**端末を活用した家庭学習例**

○ グループで一つのプレゼンデータをそれぞれの家庭から共同編集する。
○ それぞれが作成した発表データにお互いにコメントを入れる。
○ 学習のまとめを動画で作成する。
○ 技術・家庭科や音楽科，保健体育科など，家庭での取組を動画に撮って提出する。 等

## 4　学習の基盤となる情報活用能力の育成

教科等横断的な視点から，学習の基盤となる情報活用能力の育成を目指しましょう。

学習指導要領解説　小学校総則編から抜粋

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

各学校においては，児童の発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む。），問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

ICT 活用は，授業の目的達成のための手段であり，子供の情報活用能力を育てるものです。
また，校務に活用することで教育 DX を推進し，その便利さを授業に生かしていくことが必要です。

---

文部科学省「StuDX Style」（スタディーエックススタイル）
←文部科学省「StuDX Style」

総合教育センター「鹿児島県ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて」
←総合教育センター「鹿児島県ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて」

総合教育センター「ＩＣＴ活用資料」（県域アカウント活用など）
←総合教育センター「ＩＣＴ活用資料」

鹿児島県教育委員会「100 人の 1 歩のための 100 のヒント」
←鹿児島県教育委員会「100 人の 1 歩のための 100 のヒント」
※県域アカウントによるログインが必要です。